

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	A.I.S株式会社 第2工場 7号館/ME	階数	地上2F
建設地	静岡県浜松市東区有玉西町 775-1	構造	S造
用途地域	無指定・法第22条区域内	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,660 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年8月2日
敷地面積	8,400 m ²	作成者	和田設計 和田中生
建築面積	4,598 m ²	確認日	2022年8月2日
延床面積	4,957 m ²	確認者	浜松市建築行政課



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.8

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	これは、CASBEE静岡 2021SDGs対応版による評価結果である。(※SDGsは考慮しないものとする。)本建物は、本社工場の設備拡大に伴い、近隣の敷地に第2工場を建設するに至った。計画地は市街化調整区域であり、周辺が有玉緑地(公園)に近接しているため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するように外構植栽を行った。	その他 特になし。
Q1 室内環境	工場のため、評価対象外。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地周囲を緑化し、周辺環境へ配慮した。また、閉鎖的な空間にならないように見通しを確保し、境界部には、進入防止のため、見通しが良いメッシュを設置した。
LR1 エネルギー	すべての照明にLEDを採用し、省エネに配慮した。	LR3 敷地外環境 気象データを把握し、雨水排水の抑制のため、開発行為の指導に基づき、調整池を設置し、敷地外道路側溝への負担軽減を図った。交通負担軽減のため、交差点部を避けた位置に、出入口を設置した。また、余裕のある荷捌きスペースを確保した。
Q2 サービス性能	工場は大空間を確保するため、壁プレス等を配置しない鉄骨ラーメン構造とした。工場の床には耐久性のある材料を採用し、メンテナンスが極力かからないように配慮した。	
LR2 資源・マテリアル	ビニル系床シートにエコマーク商品を採用した。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要

建物名称	ALS株式会社 第2工場 7号館/ME棟	BEE	1.1	BEEランク	B+	★★★
------	----------------------	-----	-----	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.9 /5		がんばろう
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.9 /5		がんばろう
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0 /5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.8 /5		がんばろう
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	ふつう 3 点以上
			がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目		
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	2.9	
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④躯体劣化等級2 / SUS7-0の採用。/給排水 配管ランクB 2種以上採用/給排水 構造材を痛めることなく更新ができる。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。/荷捌きスペースに大庇の設置</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧工場屋根にトップライトの設置。 ⑨すべての照明にLED照明の採用。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫ヒル系床材にエコマークを採用。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LED照明の採用により、省エネルギー対策を実施。 ⑮見付比70%・地表対策費44%・屋上緑化8%を確保した。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ①</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ②</p> <p>Q-1 3 3.2 3.2.1 ③</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④</p> <p>2.2.2 ④</p> <p>2.2.3 ④</p> <p>2.2.4 ④</p> <p>2.2.5 ④</p> <p>2.2.6 ④</p> <p>Q-3 1 ⑤</p> <p>3 3.2 ⑥</p> <p>LR-1 1 ⑦</p> <p>2 ⑧</p> <p>3 ⑨</p> <p>4 4.1 ⑩</p> <p>4.2 ⑩</p> <p>LR-2 1 1.1 ⑪</p> <p>1.2 1.2.1 ⑫</p> <p>1.2.2 ⑫</p> <p>2 2.1 ⑬</p> <p>2.2 ⑬</p> <p>2.3 ⑬</p> <p>2.4 ⑬</p> <p>2.5 ⑬</p> <p>2.6 ⑬</p> <p>3 3.1 ⑭</p> <p>3.2 3.2.1 ⑭</p> <p>3.2.2 ⑭</p> <p>3.2.3 ⑭</p> <p>LR-3 1 ⑮</p> <p>2 2.2 ⑮</p>	<p>① 外皮性能</p> <p>② 昼光利用設備</p> <p>③ 昼光制御</p> <p>④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>④ 主要設備機器の更新必要間隔</p> <p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p> <p>⑪ 節水</p> <p>⑫ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p> <p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	2.9
	<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰換気扇のフードは、SUS製を採用/給水は、受水槽を設置し、災害時の水に備える。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯</p> <p>2.1.2 ⑯</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰</p> <p>2.4.2 ⑰</p> <p>2.4.3 ⑰</p> <p>2.4.4 ⑰</p> <p>2.4.5 ⑰</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	4.0
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳余裕のある階高/空間を確保 壁比=0.948</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑計画地は市街化調整区域であり、周辺が有玉緑地(公園)に近接しているため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するように外構植栽を行った。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲</p> <p>3.1.2 ⑲</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.8	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/④敷地内温熱環境の向上) ⑵計画地は市街化調整区域であり、周辺が有玉緑地(公園)に近接しているため、壁面後退5.0mの緩衝帯を設け、緑地が敷地周囲を連続するように外構植栽を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑥持続可能な森林から産出された木材/⑦温熱環境悪化の改善) ⑦</p>	<p>Q-3 1 ⑵</p> <p>2 ⑶</p> <p>3 3.2 ④</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑥</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑦</p>	<p>⑵ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑶ まちなみ・景観への配慮</p> <p>④ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑥ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑦ 温熱環境悪化の改善</p>		